道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

松本出身のシェルパ斉藤さんの新刊「あのとき僕は」。書店では芥川賞や直木賞作家の本と並んで平積み♪

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

昨年末、みんなで「5億円当たったら何する？」と盛り上がっていた宝くじは当たらず、コロナに当たりました。この3年間99・9%屋内外でマスクを外さず、出来る限りの防御をしてきたのに、新型コロナ第8波（BA・5系統）の波に乗ってしまいました。あれは1月10日、白馬にスノーボードに行った時のこと。関東・北陸・中部からも駆けつけ、今までで最大の19名という大所帯となりました。屋外での感染リスクは低いと思うのですが、ランチ時に空気感染したのかもしれません。仕事と異なる遊び場での状況判断は難しく、ここで罹患した3名が無症状時に広げた人数は6名（計10名）という深刻な残状に！

私はこの翌日、いつものように親友の太田信子さん（令和2年12月号でご紹介したシェフ）と河口湖畔までカイロプラクティック施術を受けに行ったので、まずは彼女に、そして彼女の夫とご両親にも感染させてしまいました。その2日後に陽性となった私は、のたうち回るも10日後には仕事復帰。私から移った夫も1日ずれての完治と軽症でしたが、インフルエンザとは違って、だるさや味覚異常や喉の空咳などの後引く感じがなんとも嫌な感じで、「コロナはもうご免」。

とにかく、3年前に1ヶ月の余命宣告を受けるほど重い「原発不明癌（ステージ4B）」を発症し、今もリンパ浮腫と闘っている信子ちゃんを罹患させてしまったことは最悪の出来事でした。長期休業や入退院を繰り返すも、昨年はカイロプラクティックのお陰で自律神経がどんどん整ってきて週末営業を続けられていたのに。コロナ陽性直後の緊急入院から早1ヶ月。陰性になっても熱が激しく上下し、腹部の痛みを抑える痛み止めの点滴ラッシュの生活だとか。可哀想すぎて、私も心の置き所がありません。食の人なので、食欲ないと言いつつ美味しいパンやプリンやサラダなどは食べてくれるので、アレコレ差し入れるのが唯一のできることであり楽しみとなりました。

元気な頃の信子ちゃん。大町の高原で営むカフェラビットには野菜畑があり、ヤギと羊が遊んでいます♪

世界的にコロナ規制は緩み、5月には感染上の位置付けが2類から5類になり、屋内でのマスク着用義務がなくなるとか。年寄りや基礎疾患のある人は淘汰されても仕方ないニュアンスですが、感染病棟が空いていたお陰で救われた信子ちゃんを思うと、複雑です。でも世界経済や他国との協調を考えると、それが正しい方向なのかもしれません。実はこの1月、「信子ちゃんにもしものことがあったら、私も死んじゃう」モードでした。感染回避できたはずなのが、あまりに悔しくて。でも、「負の連鎖は何もならない」という夫の言葉や、「もしもはないです！」と言い切る信子ちゃんの言葉に支えられ、なんとか持ち直しました。コロナの怖さは、自分の愛する家族や仲間に広げて苦しめている時に、悪意はどこにも存在しないのに、必要以上に自分の行動を後悔したり、感染源の確定は難しいが故に様々な疑念が錯綜すること。その状況こそが落とし穴と言えそうです。

気がつくと、周りには罹患者がいっぱいいました。私が罹ったことで、そんな話がし易くなったのかもしれません。十人十色の体験談で思ったのは、結局のところ「経路など何一つ検証できないし、完璧な防護も難しい。憎むべきはコロナ（だけど、もういない）」ということでした。試されれ、立ちはだかる壁をたおやかに登れと言われたような気がします。そんな中、良いことも。最初の写真は、令和4年12月号で紹介したアウトドア系作家のシェルパ斉藤（斉藤政喜）さんと奥様の片桐京子さんですが、やはりお正月に一家4人でコロナに罹ったとのことで、「抗体ある今だ」とノーマスクショット出来ちゃいました♪

リハビリかてらゆる～り頑張るオーストラリアのエミコちゃん。しんどい時はE-bikeで。大切なのは続けること。

そして日常が戻った中で改めて思うのは、「生ききること」の意味。平成27年5月号で紹介したオーストラリア在住の自転車冒険家のシール・エミコさんは、23年間癌と戦い続け（子宮&膀胱&肛門&骨盤内全摘）、ついに体の中から癌細胞がなくなった癌サバイバー。現在もリンパ浮腫・ストーマ・尾骶骨切除という三重苦と戦っていますが、あと僅かでゴールだった自転車での世界一周旅行の続きを再開するため、毎日トレーニングで走り回っています。「夢」は、不可能を可能に近づけてくれる魔法の薬。私も毎日を一生だと思って大切に生きよう。信子ちゃんが退院して以前のように元気になってくれたら、それはもう…宝くじに当たるなんてもんじゃないですよね！

5歳の初スノボ女子から65歳（私）まで勢揃い。大笑いしながら楽しく終了したのですが…ヤラレタ～

3年ぶりに長距離運転した信子ちゃん。夕陽も体調も最高だったのに、この日、ウィルスを贈ってしまいました。

毎回、施術前に河口湖の大石公園で、富士山にご挨拶。ラベンダーがコキアに変わる頃、体調も驚くほどアップ！

九州の散歩道

復旧への歩みを進める「熊本城」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

熊本市のシンボルとも言えるのが熊本城です。築城の名手として知られる加藤清正が、1607年に当時の最先端技術を使って完成させました。「武者返し」と呼ばれる高くそびえる石垣、複雑に入り組んだ地下通路など、その堅牢さで名高い城です。幕末まで熊本藩主・細川家の居城となり、その後も400年以上にわたって熊本の町を見守ってきました。

熊本市民はこの熊本城に深い愛着を抱いています。私は熊本に親戚がいて、幼い頃から訪ねて行くことが多かったのですが、親戚が予約してくれるホテルは必ず熊本城が見える場所でした。そんな熊本城が被災したのが2016年4月の熊本地震。石垣や櫓が崩落した無惨な姿は私が見ても本当にショッキングで、地元の人々が受けた衝撃はどれほど大きかっただろうと思います。

震災復興のシンボルとして早急な復旧作業が続けられ、一昨年には天守閣が復活。一般公開されて最上階からの眺めが楽しめるようになりました。とはいえ全体の復旧にはまだまだ時間がかかります。今後は崩れた石垣を一つ一つ手積みしていく気の遠くなるような作業が待っていて、完全復旧は2052年頃になるだろうと言われています

一方で被災を機に分かった事実もあります。例えば難攻不落の石垣は現在でも20メートル以上あります が、復旧に伴う発掘調査の結果、築城当時はさらに高かったことが分かりました。城内には特別見学通路が設けられ、被害状況や復旧作業の様子も見学することができます。

熊本城周辺は緑豊かで神社や美術館などもあり、もともと散策には最適の場所ですが、これからのシーズンは何といっても桜。桜の馬場や二の丸広場を中心に約800本の桜があり、3月下旬～4月上旬にかけて見頃を迎えます。一斉に咲き誇る桜と熊本城の競演はとても美しく、多くの観光客が訪れます。

ところで最近、ユニークなことで熊本城に注目が集まっています。それは熊本城の公式ツイッター。昨年10月17日に「どうも、最強の城です」とつぶやいたのを皮切りに、まるで城が人格を得たかのようなつぶやきをくり返し、1ヶ月でフォロワー数が5倍に増えました。その前月、「難攻不落の最強の城」を全国の専門家が投票で選ぶテレビ番組があり、熊本城が1位になったことがきっかけのようです。どことなくゆるいつぶやきは、屈強な熊本城の姿とは正反対で私も気に入っています。

（写真提供：熊本城総合事務所）

内部の展示も一新された熊本城天守閣

城内へ続く行幸（みゆき）坂の桜並木

ハッと思いました

もう二月。先月中頃、この先強い寒波がやって来ると言う頃、駅のホームで一枚のポスターに目がとまりました。「2月の伊豆は・河津桜」のコピーがピンク色全力の桜の写真に浮かんでいました。まだまだ寒くて震えているのに、「もう、春がそこに・・」。ずっとモヤモヤした日が続いていたので何だか目先が明るくなった気がしました。

なのに、七月一日から電動キックボードが免許不要（16歳以上・車道走行時速20㎞以下・歩道走行時速6㎞以下・要ヘルメットなど）での走行が可能になると言う情報が出ました。全く理解不能な決定事項です。

日頃から「交通安全」のために身勝手な運転等に警鐘を鳴らし、安全に心掛けている皆さんにとって、この件について首をひねっている方も多いと思いますが。

私見として、現状の交通事情が把握できない（把握しないのか）人々が決めた事じゃないのか？何か見えない裏事情があるのか？と勘ぐってしまいます。

メリットがあるのは、製造者、販売者、輸出入業者ぐらいで、ドライバーや歩行者の「利用者の生命の安全」を脅かすデメリットが増加するだけだと容易に想像出来るのです。

さらに、いまだに治まらない煽りや妨害などの危険威嚇行為ですが、SNSで溢れんばかりに流れています。そろそろモザイク無しでオープンにしてあげませんか。だって承認欲求たっぷりのお方々なんですからメジャーデビューして頂きましょう。

もはや、今の日本社会は「性善説」では成り立たない状況。悲しい事ですが、「性悪説」で対応しなければ、まともな未来は遠のくばかりな気がします。